

証券コード：4406（東証一部）

2022年3月期 第2四半期

決算説明会資料



2021年11月25日

代表取締役 社長執行役員
三浦 芳樹



本日の内容

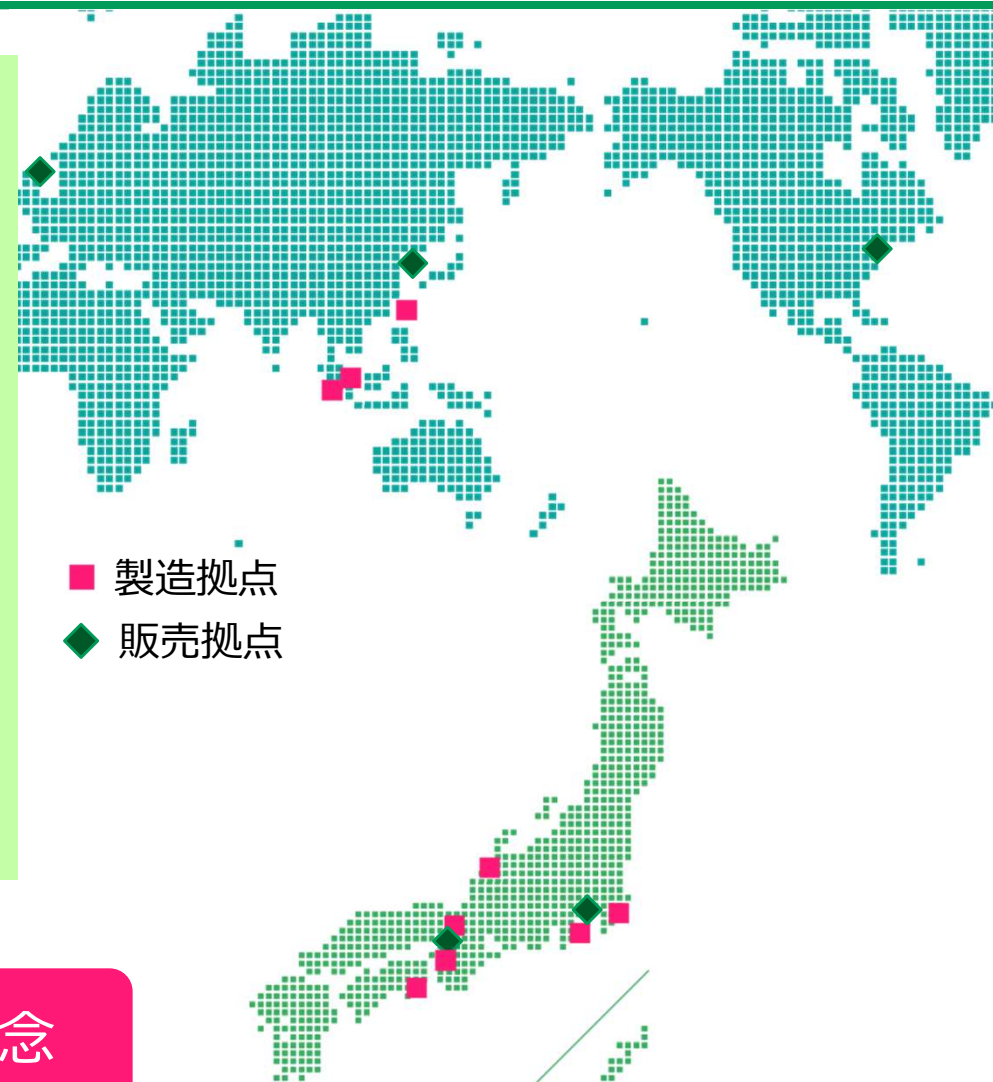


- 会社概要
- 2022年3月期第2四半期 決算概要
- 2022年3月期 業績予想
- 中期経営計画の取組み
- 東証の新市場区分選択について



新日本理化株式会社

- 創業：1919年（大正8年）11月10日
- 資本金：5,660百万円
- 従業員数：439名（連結）[2021年9月末]
- 事業内容：化学製品の製造・販売
- 営業所：大阪（本社）、東京
- 工場：京都、徳島、川崎、堺
- 研究所：京都
- 関係会社：国内4社、海外6社



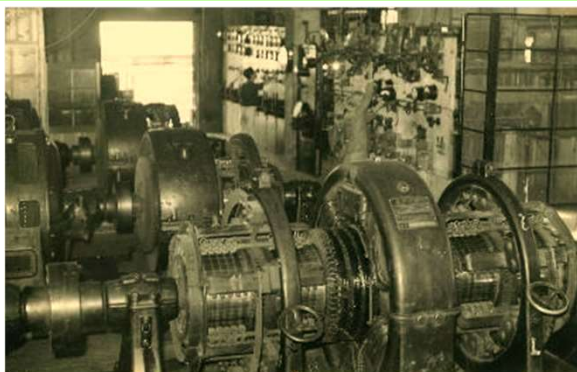
経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

新日本理化のあゆみ

1920年

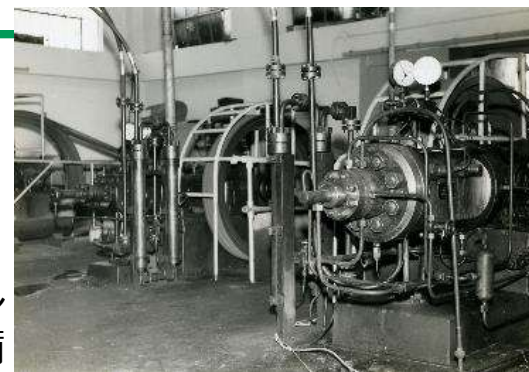
水の電気分解により製造した酸素ガスの販売を開始



創業時の直流発電機

1951年

高級アルコール製造設備



ヤシ油を水素化して高級アルコールを製造、可塑剤事業スタート

1961年

水素化技術を活用して無水コハク酸を製造（日本初）

1922年

魚油に水素を添加して硬化油を製造、今日につづく水素化技術の始まり



硬化油工場

新日本理化のあゆみ

1982年

ポリオレフィンの透明性を改良する結晶核剤を開発、機能性化学品事業に進出



ポリオレフィン製容器



1993年

植物系（ヤシ油・パーム油）の不飽和アルコールを開発

パーム油

2001年

HDDのモーター向けの潤滑油を開発、高付加価値製品の強化へ



内臓HDD

2019年

創業100周年を迎える

当社の事業内容

原料

天然油脂
(ヤシ油、パーム油)

石油由来原料
(ナフサから
得られる基礎化学品)

製品分野 (主な製品)

オレオケミカル

アルコール
界面活性剤

可塑剤

耐熱性可塑剤
耐放射線可塑剤

合成樹脂原料

ポリエステル原料
エポキシ樹脂硬化剤

機能性化学品

結晶核剤 潤滑油
ポリイミド

主な使用分野

トイレタリー



化粧品



自動車



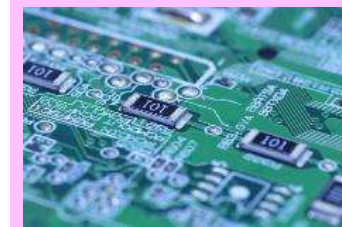
住宅設備



医療器具



電子製品





- 会社概要
- 2022年3月期第2四半期 決算概要
- 2022年3月期 業績予想
- 中期経営計画の取組み
- 東証の新市場区分選択について



2022年3月期 第2四半期 決算概要（連結）

- 売上高 : withコロナの生活様式定着による需要の回復および原料価格高騰を受けた価格改定により増加。
- 営業利益 : 売上高の確保および高付加価値製品の拡販により増加。

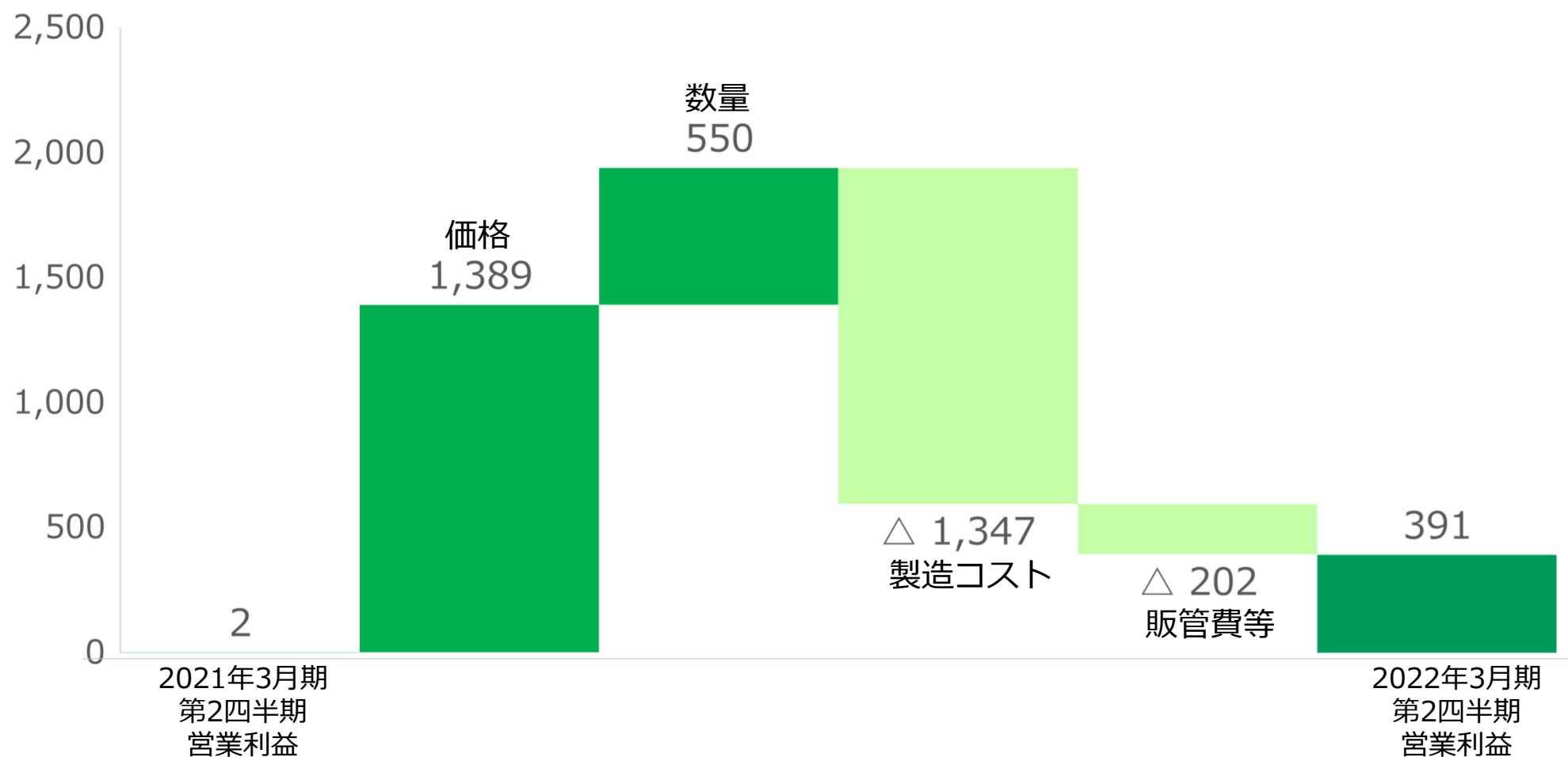
単位：百万円

		2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前期比較	
				増減	比率
連結	売上高	10,948	15,212	+4,264	+39%
	営業利益	2	391	+389	+15,303%
	経常利益	214	505	+290	+135%
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	118	299	+180	+152%
	一株当たり 四半期純利益	3.18円	8.02円	+4.84円	+152%

営業利益の増減要因（対前期）

- 昨年に比べ原料価格の高騰を市場に転嫁できたことに加え、高付加価値製品が好調であった結果、営業利益は前年同期に比べ大きく増加。

(単位：百万円)



営業外損益・特別損益

- 持分法による投資利益の計上により、営業外損益は+ 1億1千3百万円。
- 投資有価証券評価損の計上により、特別損益は△ 3千7百万円。

(単位：百万円)

営業利益	391	営業外損益			
		2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減額	
営業外損益	113	受取利息・配当金	83	79	△3
		支払利息	△21	△19	+2
		持分法投資利益	103	100	△3
		その他	47	△47	△94
		合計	212	113	△99

(単位：百万円)

特別損益	△37	特別損益			
		2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減額	
法人税等	△136	投資有価証券評価損	△23	△29	△5
		固定資産除却損	△5	△6	△0
		減損損失	△11	△2	+9
		合計	△40	△37	+2

經常利益	505
特別損益	△37
四半期純利益	330
親会社株主に帰属する 四半期純利益	299

連結貸借対照表

- 「京都R&Dセンター」の建設費用として30億円の借入を実行し、流動資産とともに固定負債が増加。

単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期 第2四半期	増減額
総資産	35,886	39,639	+3,752
流動資産	16,449	19,438	+2,988
固定資産	19,437	20,201	+763
負債	19,670	22,828	+3,157
流動負債	11,613	12,083	+469
固定負債	8,057	10,745	+2,687
純資産	16,216	16,810	+594
負債純資産合計	35,886	39,639	+3,752
自己資本比率	42.4%	39.8%	-

キャッシュ・フロー

- 投資活動によるCFの支出は、京都R&Dセンター建設費用の支払などによる。
- 財務活動によるCFの収入は、京都R&Dセンター建設資金の借入などによる。

単位：百万円

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期
営業活動によるCF	396	201
投資活動によるCF	△979	△1,330
財務活動によるCF	984	2,463
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	401	1,334
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,322	4,322

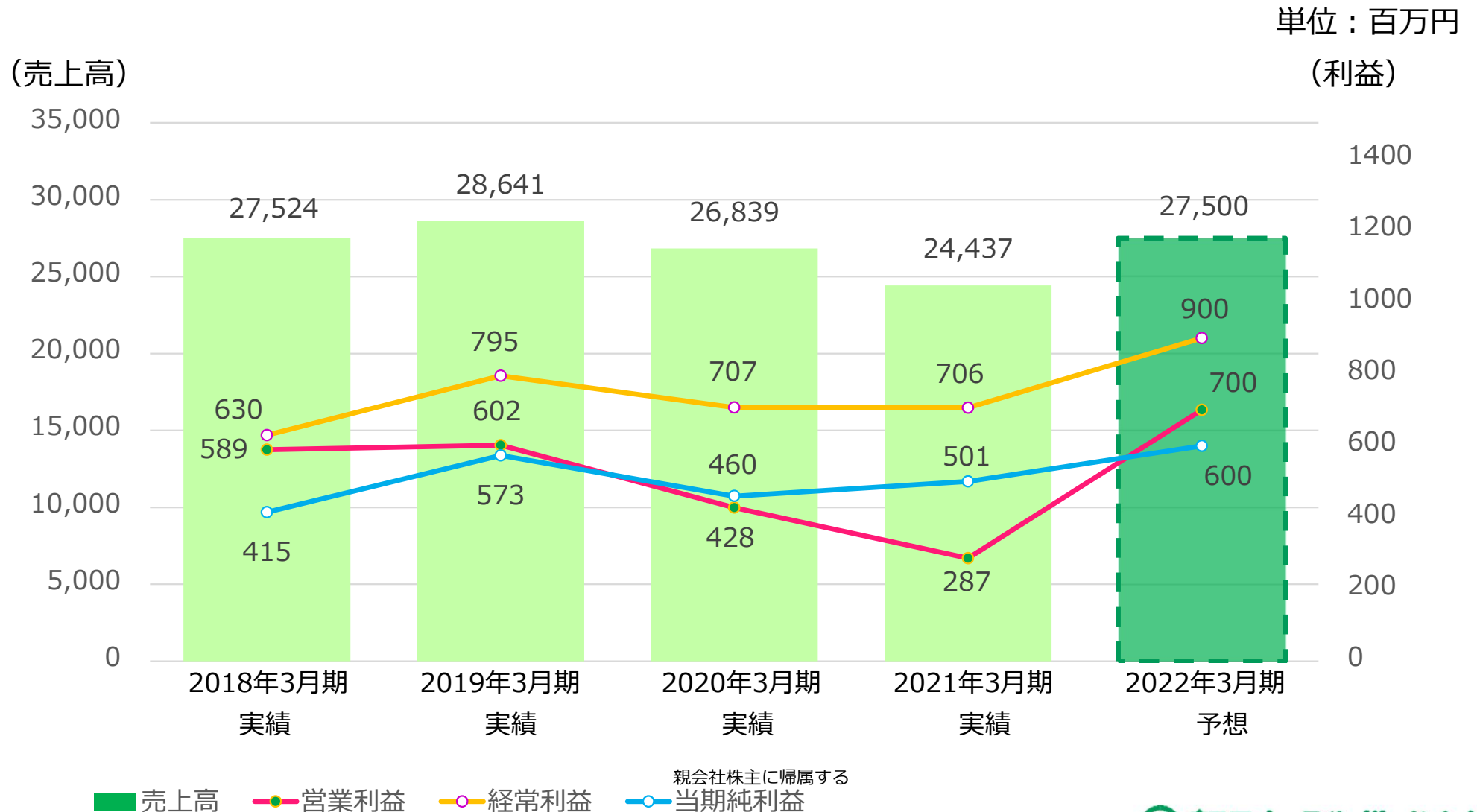


- 会社概要
- 2022年3月期第2四半期 決算概要
- 2022年3月期 業績予想
- 中期経営計画の取組み
- 東証の新市場区分選択について



2022年3月期 業績予想 (連結)

- 2022年3月期の連結業績は、コロナ前の水準を上回ることを目指す。



2022年3月期 業績予想（連結）

- 原料価格の高騰および原料の調達難が続くと予想されるなか、引き続きコスト削減を徹底するとともに、工場の安全操業と製品の安定供給に全力で取り組む。
- 医薬品向け添加剤などの収益性の高い製品の拡販に注力し、収益力を向上させることで、増益を達成できる見込み。

単位：百万円

	2021年3月期 実績	2022年3月期 計画	2022年3月期 第2四半期決算	計画 進捗率	
連結	売上高	24,437	27,500	15,212	55%
	営業利益	287	700	391	56%
	経常利益	706	900	505	56%
	親会社株主に帰属する 当期純利益	501	600	299	50%



- 会社概要
- 2022年3月期第2四半期 決算概要
- 2022年3月期 業績予想
- 中期経営計画の取組み
- 東証の新市場区分選択について



VISION 2030 ～2030年のありたい姿～



Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二の個性をもった素材のスパイスで、
世界をより、健やかで豊かなものに、
毎日をもっと、心ときめくものに。

中期経営計画（2021～2025）

- VISION 2030の達成に向けた直近5カ年（2021年度～2025年度）の具体的な戦略。
- 2025年度に **売上高：360億円、営業利益：22億円、ROE：8.0%**（連結）を達成し、2026年度以降の飛躍につなげる。

中期経営計画（2021年度～2025年度）の概要

基本コンセプト

- 環境・社会・人（命）に関わる課題に果敢にチャレンジし、価値創造企業を目指す。
- 「情報・通信」「モビリティ」「ライフサイエンス」「環境ソリューション」の4領域に経営資源を集中し、成長戦略を実現する。

数値目標（2025年度連結）

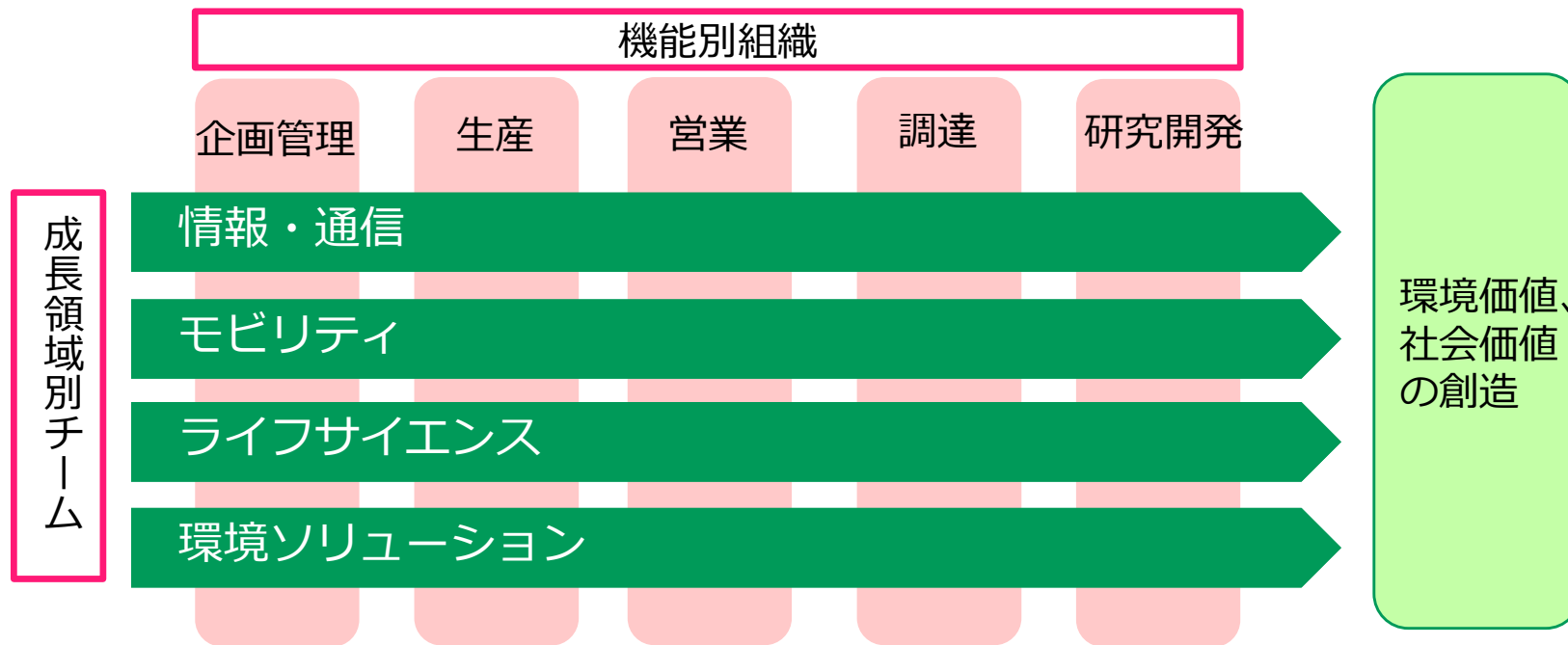
- 売上高 : 360億円
- 営業利益 : 22億円
- ROE : 8.0%

事業戦略

- 稼ぐ力の再構築
スクラップ&ビルドによる事業ポートフォリオの最適化 / 高付加価値製品へのシフト / 徹底したコストダウンの追求 / 海外売上高比率の向上
- 技術革新による競争優位の獲得
オープンイノベーションの加速 / DX推進による生産性向上および新市場の創出
- CSRの推進
事業を通じたSDGsへの貢献 / 天然素材・クリーンエネルギーを活用する事業の拡大
- 組織再編と人材育成の強化
成長領域別チーム活用による意思決定の迅速化 / ダイバーシティ&インクルージョンの推進 / やりがいを持って働ける組織の実現 / チャレンジを促す仕組みづくりと積極的な支援

中期経営計画の取組み ～成長領域へのリソース配分を強化

- 成長領域への販売を強化するとともに、新規事業創出に向けた新体制をスタート。



情報・通信

- 電子基板材料向けの樹脂改質剤やHDDのモーター向けの潤滑油を拡販。

モビリティ

- 自動車の部材や塗料に使用される合成樹脂原料の販売が堅調に推移。

ライフサイエンス

- 注射器のシリンダーに使われる結晶核剤の販売が伸長。

中期経営計画の取組み ～環境課題への挑戦

- 気候変動問題をはじめとする環境課題への挑戦に着手、持続可能な成長を追求する。

サステナブルファイナンスの活用

- 新拠点「京都R&Dセンター」の建設資金をグリーンローン※により調達。

※資金の用途を環境改善効果のある事業（グリーンプロジェクト）に限定したローンをいう。

- 借入先の1社、日本政策投資銀行より、「DBJ環境格付」を取得。



可塑剤でバイオマスマーク認定を取得

- パーム油・パーム核油や大豆油など天然由来原料を用いた可塑剤4品目で、バイオマスマーク※認定を取得。

※生物由来資源（バイオマス）を利用し、品質および安全性が関連法規等に適合する環境商品に付与できるマークをいう。日本有機資源協会が運営する。

- 今後も認定商品のラインアップを拡充し、環境価値を訴求していく。

中期経営計画の取組み ～イノベーション創出の基盤づくり

- ハード・ソフトの両面から、イノベーションを生み出す基盤・風土づくりを進める。

京都R&Dセンターを拠点に オープンイノベーションを推進

- 多様なパートナーとの共創の場として「京都R&Dセンター」を開設。
- 大学や異業種企業との共同開発に向け、複数の案件が進行中。
- 技術顧問の招聘など外部の知見を活用しながら、イノベーションを生む風土をつくる。



デジタル化による 業務プロセスの最適化

- 生産部門／オフィス部門のそれぞれでDX推進チームを立ち上げ。
- 全社的にデジタル化を進め、業務プロセスの最適化に取り組むことで、トランスフォーメーションを起こす基盤を整える。



中期経営計画の取組み ～多様な人材が活躍する会社へ

- ダイバーシティ & インクルージョン推進と個の成長意欲を引き出す取組みを加速。

人材を多様化し SPICEのきいた組織へ

- キャリア採用の強化や女性の採用拡大により、人材の多様化と組織風土の刷新を目指す。

階層別／選抜型教育を 併用した人材育成

- 階層別教育を拡充し、誰もが成長機会を得られる仕組みを整備。
- 次世代経営層の候補者育成のため、選抜型研修を開始。

誰もが活躍できる環境づくり

- 男性の育児休業取得促進をはじめ、育児と仕事の両立支援を強化。

※育児休業取得率（2020年4月～2021年9月）

男性：40% 女性：100%

- 従業員の健康増進に注力し、活力と働きがいのある職場をつくる。

健康経営優良法人2021 ▶
（大規模法人部門）認定。
今後も認定を目指す。





- 会社概要
- 2022年3月期第2四半期 決算概要
- 2022年3月期 業績予想
- 中期経営計画の取組み
- 東証の新市場区分選択について



東証の新市場区分選択について

- 東証の新市場区分について「スタンダード市場」を選択申請することを決定。
- 将来的に、真に「プライム市場」にふさわしい企業となることを目指し、以下の施策を推進する。

今後の成長に向けた考え

- 中期経営計画（2021年度～2025年度）を着実に遂行し、持続的な成長を可能にする強固な基盤をつくる。
- 投資家の方々との建設的な対話から得る“気づき”を経営に活かし、中長期的な企業価値の向上に取り組む。
- 中長期的な財務健全性と成長分野への投資状況を考慮しながら、安定配当の継続と株主還元の充実に努める。



Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二のスパイスで、
世界を健やかで豊かなものに、毎日を心ときめくものにしたい。

もの創りの会社、新日本理化は、
これからも広く社会の発展に貢献してまいります。

本日は、ご清聴いただきありがとうございました。

【お問い合わせ先】

新日本理化株式会社 経営企画部

<https://www.nj-chem.co.jp/>





新日本理化株式会社



Be the best **SPICE!**